

(3) 嘉瀬川ダム（佐賀県佐賀市）

◆実施主体

ふじねっと（その後、株式会社インビル）

◆水源地域活性化調査時の活動内容

①旅館・農家が連携した新たな特産品開発

- ・地域で栽培されている農産物を加工した「里山のおばあちゃんが作った真空パック詰めのお惣菜」を試作。
- ・商品を販売するために農産物直売所や小売店でのヒアリング・現地調査を通して商品の販売促進に向けた方向性を整理。
- ・富士町産品の詰め合わせセット「ふじから便」の可能性を模索。

②間伐材の有効活用

- ・富士町の間伐材の有効活用を目指し、積み木商品の開発を実施。

③観光商品の開発

- ・富士町の魅力を発信するための観光商品の開発を行い、5種類のモニターツアーを試行。

◆地域の関わり

嘉瀬川ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「活動団体」が中心となり、「行政」、「生産者」、「関連団体（温泉組合、森林組合など）」、「専門家」の6主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・ リーダー	起案者・ 発案者	専門家・ 助言者	宣伝者	事務者	支援者・ 後援者	同好の士・ 同調者
活動団体 (会社組織)	●	●		●	●		
行政						●	
生産者						●	
学生サークル						○	
関連団体						●	
専門家						△	
企業						○	
都市住民							●

●水源地域活性化調査以降も継続
△水源地域活性化調査以降は撤退
○水源地域活性化調査以降に参画

◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を積極的に活用するために、任意団体であった『ふじネット』を解散し、新たに会社組織を立上げ、活動を継続しています。

また、水源地域活性化調査で実施したツアーの開催などを継続するとともに、「学生サークル」と連携しながら、遊休農地を活用した体験プログラムの開発や、社会人ゼミ旅行の誘致などを推進しています。さらに、都市部の企業と連携し、地域の農産物を使用した『冷製スープ』等の開発・販売だ

けでなく、地域外の活動団体と連携した『まちづくり勉強会』の開催や、行政から委託を受け集落の巡回や状況把握等を実施しています。

◆課題

会社組織を立ち上げたばかりであるため、資金の工面に苦勞しています。資金面については、関連する組織から情報や知識を得ることで運営することができています。

地域や行政からは、地域活性化活動に対するニーズはありますが、人材、資金面で余裕がないため、対応できない場合があります。

また、地域で単発の取組を実施するだけでは、地域住民や地域の各種団体との関係を構築することができなかったため、継続して地域のイベント等に参加しました。

◆まとめ

嘉瀬川ダム水源地域では、水源地域活性化活動の基礎となる農産物や地域資源を関係者で共有することができ、特産品や体験プログラムの開発を地域が一体となって実施することができました。

また、水源地域活性化活動終了後、任意団体であった活動主体を、法人格を有する株式会社に立ち上げ直すことで、対外的な信頼が向上し、行政と連携した活動がしやすくなりました。

さらに、株式会社の立上げにあたり、行政の庁舎内に設置していました事務所を地域の遊休物件に移すことで、地域住民が集いやすくなり、地域住民との深い関係を構築することができました。



ふじから便



モニターツアーの様子

活動の流れ（嘉瀬川ダム）

